

## 2021年10月実績概要（メモ）

（2021. 11. 18）

定修も年後半に向けて少なくなり需要サイドでの強弱材料がある中、前年対比の増産基調に変わりなし。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 556, 500トン

前月比 +3.9% (+20,600トン)  
前年同月比 +7.6% (+39,300トン)

| 生産増減に係る諸要因 | <前月比>   | <前年同月比> |
|------------|---------|---------|
| 日数増減       | + 3.4 % | —       |
| 定修要因等      | —       | + 9.7 % |
| 能力増減       | —       | —       |
| 稼働率変動      | + 0.5 % | ▲ 2.1 % |
| 生産増減率      | + 3.9 % | + 7.6 % |

稼働プラントの実質稼働率試算：前月93.5%\* → 当月94.0% ← 前年同月95.8%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月1社1プラント

2021年1～10月の累計生産量 5,213.3千トン、前年同期比+7.1%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の増加があったが、稼働率要因や定修規模差との関係から、HDPE、PS、MMAモノマー、キシレンなどの10品目はマイナス。LDPE、PP、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、ANなどの7品目はプラスとなった。

前年比では、稼働率要因や定修規模差等からPP、PS、SM、塩ビモノマー、MMAモノマー、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの13品目がプラス。HDPE、EO、EGなどの4品目はマイナスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数増加とともに定修系列数の減少や稼働率要因からLDPE、PPはプラス。HDPE、PSは定修規模の増加等もありマイナスになった。

前年比では、稼働率要因や定修規模差からLDPE、PP、PSはプラス。HDPEのみはマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、原料情勢が様変わりする中、需要面では個人消費は持ち直しの動きが続いている。

この一方で、輸送機械等のユーザー産業における部品調達難からの減産が影響を及ぼし、個々の製品の出荷分野によっては、まちまちの動きとなった。LDPE、HDPEでは包装向けの出荷増加を背景に前月に続いてプラスとなるも工業製品向けの出荷が多いPPのほかPSでもマイナスとなった。

前年比は、LDPEは前年水準を僅かながら上回ったが、HDPE、PP、PSはマイナスとなった。

分野別では、フィルム分野の需要は底堅くLDPE、HDPE、PPともに前年を上回ったが、HDPEの中空成形分野、PPの射出成形分野等の出荷は大きく減少することとなった。また、PSでは出荷数量の多い包装分野は微減に留まりつつもFS分野等ではマイナスが見られている。

ハ) 輸出

前月比では、中国での省エネルギー政策や物流面での遅延影響もあり、生産動向が見極めにくい状況が続いている。LDPE、PPは前月に輸出が減少したこともあり若干反転しプラス。HDPE、PSはマイナスとなった。

前年比は、ポリオレフィン3樹脂では漸減が続いているほか、ここ数カ月、比較的好調な輸出が続いていたPSでもマイナスに転じることとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPE、PSで微減、HDPE、PPは増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対して、LDPEは前月並み、HDPE、PP、PSはそれぞれ上昇した。在庫水準としては、LDPE、PSはほぼ適正範囲内、HDPE、PPは幾分か増加状態となっている。

|      | 前月対比増減量<br>(単位:トン) | 季節調整済在庫率 (単位:ヶ月) |      |
|------|--------------------|------------------|------|
|      |                    | 9月末              | 10月末 |
| LDPE | ▲ 100              | 3.2              | 3.2  |
| HDPE | + 2,000            | 3.0              | 3.3  |
| P P  | + 43,500           | 3.0              | 3.5  |
| P S  | ▲ 900              | 1.3              | 1.7  |

以上

前月からの修正を\*で付記